

間伐方法現地検討会を開催しました

千厩農林センター管内では、ここ数年、森林所有者や森林組合職員等を対象に、「鋸谷式間伐」の講習会を行い、間伐事業を推進してきましたが、「鋸谷式間伐」は、ある程度地域に浸透したこともあり、また、間伐の推進には、森林所有者の理解に加え負担額がどの程度か知ることが先決であると考え、今回は次のような形で間伐方法検討会を開催（H20.11.2）しました。

昨年までは、間伐を推進するためには、森林所有者に対し、間伐診断カルテの作成等を通して間伐の必要性を強調してきました。しかし、間伐には経費がかかるため、今回は、経費の説明が重要であるとし、見積書の作成を取入れた検討会としました。

検討会の場所は、一関市千厩町奥玉宇天梅地内にある間伐展示林で、平成10年5月に2回目の間伐（間伐率30.7% ha当たり900本に整備）が行なわ

れ、平成15年に3回目の間伐が計画されていた林分としました。

参加者は、森林所有者、森林組合、農林センター職員及び林研グループの会員で、3班に分け毎木調査（53年生0.3ha）を行ない間伐木を選定しました。



次に室内で班毎に間伐木の材積を求め、間伐材販売額、それに係る経費を算定し見積書を作成しました。最後に各班から見積書の説明をしてもらい意見交換を行ないました。

生産間伐においては、出材の単価設定と搬出経費の兼ね合いが実施を判断する大きな因子となるため、今後の普及には、森林を評価する知識や技術の習得の必要性を感じました。